

令和6年度学校評価報告書

令和7年3月25日

1 本年度の重点目標

- (1) 学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けさせるよう「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。
- (2) 生徒の自己指導能力が身に付くよう多様な教育活動を通して、一人一人の発達を踏まえた生徒指導の充実を図る。
- (3) 生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう学校教育全体でキャリア教育を推進する。
- (4) 生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が身に付くよう学校教育全体で体育・健康に関する指導の充実を図る。
- (5) 採点支援システムやクラウドサービス等のICTの活用を促進し、校務運営の抜本的な見直しを行う。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	「わかる授業」に向けて指導方法及び学習課題の工夫改善を図る。【B】 - 適切な観点別学習状況の評価を通して、生徒の学習意欲の向上を図る。【C】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、生徒の学習意欲の向上を図る。【B】 - 探究的な学びを推進し、確かな学力の定着を図る。【B】	自己評価の結果の内容の適切さ【B】 取組みの適切さ【A】 今後の改善方策の適切さ【A】
改善方策	- 学校全体として個々の教員が研修を重ねて工夫改善を図る意識は醸成されている。現状に満足することなく自己研鑽に努めていく。 - 総合的な探究の時間の取組に関しては、地域との連携及び校内体制等、昨年度より発展させることができた。次年度はキャリア教育の充実に努めていく。	
生徒指導	- 主体的に社会的規範を遵守しようとする意識の醸成を図る。【A】 - 教育相談を通して、個人の資質や能力の伸長を援助する。【A】 - 適切な情報発信を行うとともに、情報の記録、整理に努める。【B】 - いじめへの対応については マニュアルに沿って組織的に対応する。【B】	自己評価の結果の内容の適切さ【A】 取組みの適切さ【A】 今後の改善方策の適切さ【A】
改善方策	- 生徒会が中心となって校則の一部を改正することができた。引き続き生徒の主体性を大切に生徒指導を実践する。 - 情報発信に関しては、C l a s s i の活用を充実させることで改善に努めていく。	
進路指導	- 希望進路100%の実現を目指し、3年間を見通した組織的・計画的な進路指導を行う。【A】 - 生徒の自己学習能力を身に付けさせ、3年以内の離職率0%の実現を目指す。【B】 - 生徒・保護者に向けて、わかりやすい情報発信を行うとともに、情報の整理に努める。【A】	自己評価の結果の内容の適切さ【B】 取組みの適切さ【A】 今後の改善方策の適切さ【A】
改善方策	- 進路希望実現のために、外部人材などの活用も強化し、生徒の進路意識を高める活動を充実させる。 - 引き続きICTを活用した進路指導を充実させていく。	
保健安全指導	- 基礎的な身体能力の育成を図るとともに、健康情報や性に関する情報等を正しく選択して適切に行動できるよう、学校教育全体で指導の改善・充実を図る。【A】 - 安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けられるよう、学校のエデュケーション全体で指導の改善・充実を図る。【B】	自己評価の結果の内容の適切さ【A】 取組みの適切さ【A】 今後の改善方策の適切さ【A】
改善方策	外部専門機関と連携を強化し、取組の充実を図る。	
公表方法	保護者・地域へ文書にて公表及び学校ホームページにて公表	